

海外出張報告書

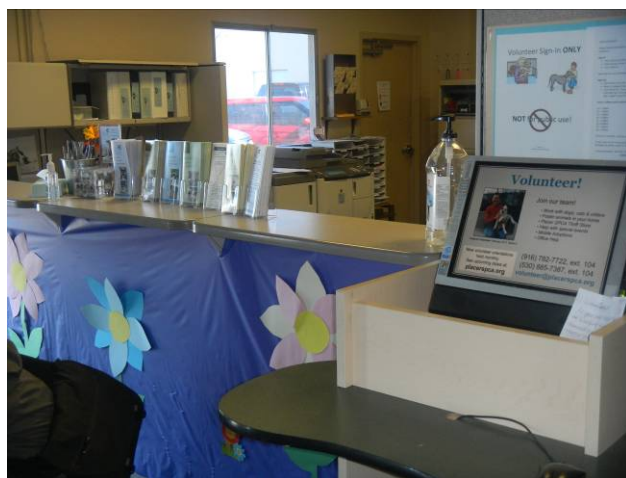
2013 年 3 月 25 日提出

氏名	方 靖
所属	診断治療学講座・獣医外科学教室
学年	博士課程 1 年
出張先	アメリカの U C Davis とコーネル大学の獣医施設 数ヵ所
出張期間	2013 年 3 月 3 日～ 3 月 11 日
目的	診断センター，動物病院およびシェルター見学

この度、リーディングプログラムの経費を受け、アメリカのカリフォルニア大学デービス校 (UCD) およびコーネル大学の診断ラボ（センター）のなどの獣医施設を訪問した。天候不順などで、出張期間は 2013 年 3 月 3 日～ 3 月 11 日でとなった。

一. Placer SPCA Companion Animal Care Center

Placer SPCA (Society for the Prevention of Cruelty to Animals) は 1973 年に設



立され、コミュニティの動物や人にサービスを積極的に提供している非営利組織であり、動物の人道的な治療だけでなく、安全で、健康な社会生活を促進する取り組みを行っている。具体的には、去勢手術を支援したり、迷子になったペットを探したり、災害等で共同救助活動を行うといった、ボランティアの活動を行っている。（左図はフロント）

この施設で受け入れた動物の約 1 / 3 は犬、2 / 3 は猫であり、ほかの動物も少数ではあるが受けている。その中でも 60% は飼い主がいるペットである。その理由としては、飼い主が飼いきれなくなったペットをシェルターで受け入れているためである。シェルターは政府や個人などの支援を受け、年間約 100 万ドルの費用が掛かっている。9 人の staff およびボランティアが所属しているが、常にボランティアを募集している。ここは良性的に運営している。

ここでは収容した社会性に乏しい動物を教育したり、新しい飼い主を捜したり、飼い主がいらない教育不可能の動物については安楽死を行うが極力少ない件数に抑えている（全体の 20%）。病気がある動物については、ある程度の治療を行い、病気がない動物は積極的に飼い主を探している。私にとって、非常に印象に残ったのは、施設

にいる動物により良い環境と生活空間を提供するとともに、動物をもらわれやすいようにかわいらしく見せる取り組みを行っていることである。例えば、出来る限り、動物のケージを大きくし、外の散歩時間をつくり、ストレスを軽減するようにしている。また、定期的に猫の毛型をライオンのように変えるなどし、外見をかわいらしくしている。(右図は猫舎の見学)



二. UC Davis School of Veterinary Medicine

1. The California Animal Health and Food Safety (CAHFS) (右図は UC Davis ラボの写真)

カリフォルニア州の動物衛生と食品の安全性 (CAHFS) ラボラトリーシステムは、カリフォルニア州の家畜や家禽の健康を保護し、カリフォルニアの警告システムのバックボーンである。CAHFS は、動物の疾病を迅速、信頼性



の高い診断を行い、カリフォルニア大学デービス校、カリフォルニア、獣医師、家畜や家禽の生産者とのパートナーシップで運営している。

主に Avian Virology、Bacteriology、Electron Microscopy、Food Safety、Immunology、Mammalian Virology、Molecular Diagnostics (Biotech)、Pathology/Histology、Regulatory Serology、Toxicology にラボを分ける。診断の流れは受付でサンプルを受け、各担当のラボに発送し、そして、他のラボを協力する。動物解剖用の場所は大動物もうまく入るように、門を高く作り、大動物の吊り輪があった。また高台からの観覧用のスペースもある。

2. William R. Pritchard Veterinary Medical Teaching Hospital

動物病院には 3 つの建物があり、大動物と小動物に分け、それぞれ主建物の一階と二階にある。診療に参加する学生は少なく、ほぼ獣医師が行っている。営業時間は 24 時間で症例数は北大動物病院より多い。内科と外科だけではなく、

部門の分け方は極めて細かい。しつけ指導と栄養管理部門も散在する。そして、現在は高額のためあまり利用されないが、透析用の施設も充実している。放射線の設備もとてもよく、放射線を受けるために、全ての動物について自分の体を象った固定板が用意されている。（下図は Cornell 動物病院で放射線治療で使用する固定用具）



ここで特に接待した Professor Robert H. Poppenga と Amy S. Kapatkin を感謝する。

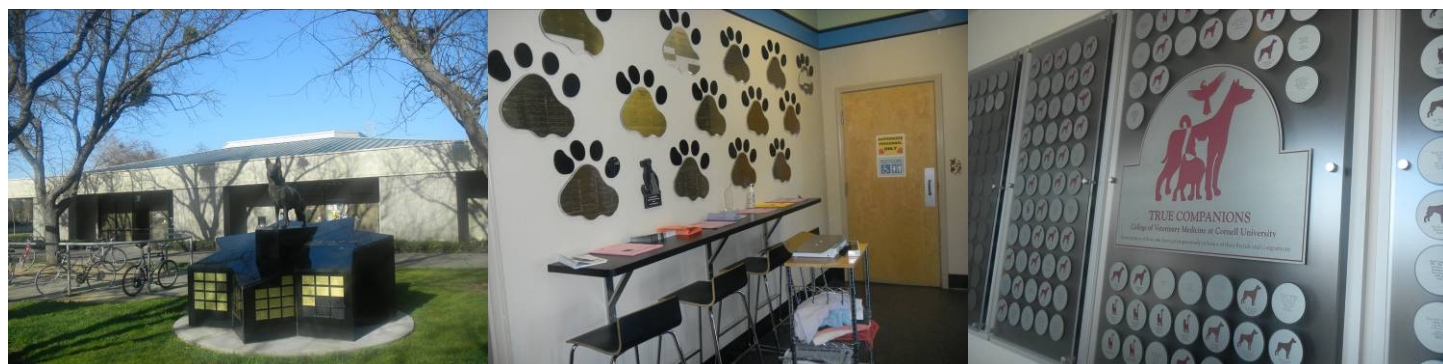
三. Cornell University College of Veterinary Medicine, Animal Health Diagnostic Center

コーネル大学は古い歴史のある大学であるが、この診断センターはここ最近できた施設である。環境にやさしい材料を使用し、完全的な安全システムを利用する。ラボと他の部門も細かく分けている。企業の問題を相談を乗る部門もある。このセンターは全世界から毎日 500－800 箱のサンプルを受けている。毎種の動物の検定項目と費用は細かく示している。診断の流れは UCD とほぼ同じ。

四. その他

1、動物の記念を重視している。各場所は失った動物の記念を記載している。

図は順に、UC Davis の校舎、SPCA のホールの壁、コーネル大学動物病院の壁。



2、 広さ

アメリカの主な印象は全ての施設を広い、故に、操作空間も広い、操作しやすい。

3、 記念品の販売

各大学と Placer SPCA が全部記念品の販売が行っている。

4、 天候不順

この度、天候不順や航空会社の機材不良のため、予定していた2日間のコーネル大学訪問は1日に縮まった。また3月10日の帰札予定もかなわなかった。出発から最後まで、ほとんどのフライトに何らかの問題があり、特に Ithaca の飛行機が全部キャンセルとなってしまった。海外で研修する際にはいろんなハプニングに対して十分な準備と対応についてよく考えるべきであることを痛感した。